

協会ニュース



BCP(事業継続計画)を改めて考える

事業所において義務化されているBCP（事業継続計画）だが、大きくは次の3つの視点で考えねばならないと感じている。

① 収支の安定 ②災害時対策 ③人材確保・人材育成

いずれも優先順位がつけ難く、または並行して取り組まねばならない課題である。

しかし、地域から多くの役割を期待され、行政からは多くの義務が課せられており、人材不足対策として、合理化、効率化、利益の追求を目指す傾向が強まっている。乱暴な表現ではあるが、業界における不正や不祥事、パワハラ、虐待…などにはそういう背景もあると感じる。

やるべきことはやらねばならないのだが、例えば、BCPにおける災害時対策としては、有事の際に家族や自分の地域よりも事業所のために役割を担ってくれる人材の確保、物資などを有事に備えて購入する経費の確保、利用者の家族や地域の状況を踏まえた個別避難計画の策定や把握…目の前の業務に追われながらこれらを行わねばならない。

行政も他事業所も地域も「人材不足への対応」という同じ課題を持っており、一緒にこの課題に取り組んでいく、普段の業務とこれらを切り離さずに考えていくことが必要である。「平時に出来ないことは有事に出来ない」、ということである。

例えば、グループホームたけだ苑では水害時の対策として、たけだ苑が5階建てであることを利点とし、避難所への水平避難ではなく近隣の事業所と一緒にたけだ苑への垂直避難をすることにした。地域の避難訓練などに参加し、一般避難所の機能などを把握した結果、自分達の建物での垂直避難が効率的であるという考えに至った。もちろん、災害の規模によるものであるし、一般避難所への避難も想定しておくことは必要であり、行政とも話し合いを重ねての事である。

このことで避難所への移動という大変な労力を省くことができ、他にやらねばならない対応に力を注ぐことができる。限られたマンパワーの中でBCPを「絵に描いた餅」にしないために、現実的な対応を一つ一つ考えていかねばならない。



虐待防止研修会

(R7.9月16日)

《虐待の発生要因》

- ・教育、知識、介助技術等に関する問題
- ・職員のストレスや感情コントロールの問題
- ・倫理観や理念の欠如

◎経験やスキルが少ない場合、自分の言動が虐待であることを認識できないため、結果、利用者の心を傷つけてしまい虐待ケースとなる。

◎倫理観の欠如

周りの人に関係なく身勝手な行動を取り、周囲に当たり散らす自己中心的なふるまいをすること。

◎人間性、人員不足や人員配置により、ストレス過多に。結果、余裕がなくなり、暴言を発してしまい、意図せぬ放置をしてしまい、虐待ケースとなる。

◎理念の欠如

価値観や目指すべき方向性が失われている状態。

私たちはこれらの要因をきちんと認識して、対策を取ることが求められています。

「支援」と「虐待」の線引きは？

相手を知ることによりグレーゾーンに至らないことも…（障害特性、心理状態…）

◎対策として

自分を客観視して、ストレスを溜めず、感謝の気持ちを持つことを意識して行動することが大事。情報共有して連携することが大切。

利用者の話を直ぐには聞けない場合は時間を伝える（何分後）。曖昧で（後でね）が、忘れてしまった場合は無視になる可能性も。（その場合は虐待になるかも）

怒ると叱るの違い

怒る	叱る
感情的に 自分のために 過去に焦点を当てて 怒りと勢いで 自分の言いたいように 感情にまかせて	理性的に 相手のために 未来を見据えて 愛と勇気で 相手に伝わるように 試行錯誤しながら

《虐待の種類》

① 身体的虐待

（暴力で痛みを与える、必要性なく身体の動きを抑制する、過剰な投薬をする等）

② 放棄・放置

（食事や排せつなど必要な支援を行わず生活環境や身体状況を悪化させる等）

③ 心理的虐待

（侮辱、無視など精神的な苦痛を与える等）

④ 性的虐待

（本人が同意していない性的な行為やその強要等）

⑤ 経済的虐待

（本人の同意なしに財産等金銭を搾取したり、必要性なく本人が使う金銭の制限を行う等）

他人からされたくないことを
他の誰かにしないこと…
みんなわかっていること？

善いことも悪しきことも誰かが見ている
見て見ぬふりの同意、同調圧力、気づくこと

法、ガイドラインは最低限の取り決め
その上に支援者としての規範・モラルの構築を…



ジョイ・ジョイ



地域奉仕活動 ゴミ拾いもしてます



某回転ずし 〇〇ロー



T病院 んめ!! T食堂
メンマカレー丼??
ご存知でしょうか?



ひとコマ



ある日、グループホームのお隣の住人から入居者Mさんに対する苦情がありました。今まで良くしてくださっていた方ですが、さすがに耐えかねたようでした。

我々も困ってMさん本人に事情を伝えました。

職員：「ここにきて5年間いろんな方法を提案して、生活が安定するようにやってみただけどうまくいかなかったね…今度のことでもうここには居れないかもしれないよ…どうする？」

Mさん：「施設に行くしかねえべ…自分がやったことだから…」

職員：「施設ってどんなところだかわかるの？タバコも吸えないし、今までみたいに自由に買い物できないし…我慢できるの？今まで我慢できなかったのに…」

Mさん：「大丈夫だ…しょうがねえべ」

職員：「しょうがねえっていうけどさ…そういう生活になってもいいと思ってるの？」

Mさん：「…だってこれ以上迷惑かけらんにべ…また、やっちまうもん…」

私たちはMさんの生活が充実するためには何らかの役割や達成感を持つことが有効だと考え、就労継続支援事業の利用を進めてきました。それによって、少しでも自分でお金が稼げて、睡眠も安定し、人間関係のトラブルも減れば一石二鳥だと…。しかし、またしても他者に迷惑をかけるトラブルを起こしてしまいました。

今まで私たちはMさんが失敗するたびに、「ルール守れない人はGHに入れないよ？ここに居たかったらルール守って！」と言ってきたのです。

Mさんはそれをよくわかっており、いろんな工夫や配慮をしてもらっても自分はきっとまた失敗し、職員を困らせる…もう施設に行くしかない…と。

私たちは、良かれと思って提案してきたつもりですが、Mさんを追い込んできたのかもしれませんが…しかし、現実社会においては「本人がどう思おうとダメなことはダメ」であり、「ダメではないギリギリ」を探していかなければなりません。

今、Mさんは、就労継続支援事業を止めて地域活動支援センターの利用に切り替え、さらに部屋を替えて違った環境で何度目かのチャレンジをしています。今度こそ、ダメではないギリギリの中で、自分なりの安定した生活を見つけていただきたいと思います。

編集後記

ほんの少し前まで暑くて暑くて…半袖で過ごしていたのに、あっという間に長袖でタイツも履くようになってしまいました。山もすっかり色づいて…それもあっという間に葉が落ちてしまうのでしょう。今はつらくても「明けない夜はない」「止まない雨はない」「冬来たりなば春遠からじ」。

でも、夜も雨も冬もないと困ります。最近では「災害級の…」と、堪えて通り過ぎるのを待たねばならない時もありますが、できればその時を大切に過ごしたいと思いますし、その程度で済んでくれることを祈ります…。(J)